

# 福島大会に参加して

つがる市立瑞穂小学校 會津隆史

## ◆はじめに◆

平成29年11月9日(木)～10日(金)の2日間、福島県福島市において第37回東北地区小中学校教頭会研究大会福島大会が行われました。両日とも若干風は強いものの天候に恵まれ、西北小中教頭会から1名、青森県からは大会役員も含め55名、全体では900余名の参加者がありました。



1日目は、とうほう・みんなの文化センター(福島県文化センター)にて開会行事及び記念講演が行われ、2日目は、各会場にて分科会が行われました。

## 【1日目】

### ◆開会行事◆

あいさつ

「チームふくしま そして チームとうほく」

東北地区小中学校教頭会

会長 佐藤 健

研究基調提案

福島県公立小・中学校教頭会

研究部長 丹野 隆明

### ◆記念講演◆

演題 「ふるさと福島への想いと願い」

## ～なすびなりの応援のカタチ～

講師 タレント なすび 氏



小中教頭会の会員であればご存じのことと思いますが、なすび氏は、日本テレビのバラエティ番組「進ぬ!電波少年・電波少年的懸賞生活」にて、1年3ヶ月間を懸賞のみで生活し大ブレイクしたタレントさんです。「世界で最も長く懸賞生活を続けて人」としてギネスブックにも掲載されました。その後、志していた喜劇俳優としての活動を本格化させ、2002年に劇団「なす我儘(ガママ)」を旗揚げし、座長を務めていらっしゃいます。

東日本大震災で被災した故郷福島の復興再生を祈願し、2011年8月に「四国お遍路」を歩いた後、さらに故郷への祈念を込め、2013年エベレスト登山に初挑戦しました。しかし、頂上直前100メートルにて下山。翌年2014年、2度目のチャレンジも大規模な雪崩発生により断念。2015年3度目のチャレンジは、登山中にネパール大地震に遭遇。奇跡的に生還するも、下山を余儀なくされました。2016年4月、4度目のエベレスト登頂を目指しネパールへ。5月19日、ついにエベレスト登頂を果たしました。

2015年から2016年には、東北復興を願う「潮風トレイル」ルート900kmを青森から福島まで徒歩で踏破しました。

なすび氏のふるさと福島を想う気持ちと行動力には、唯々感心させられるばかりでした。また、これからの日本を担う子ども達に、「やらないで後悔するよりも、やって後悔する方が自分の大きな糧となるということを教えてあげてください」という、なすび氏の言葉が深く印象に残りました。

## 【2日目】

### ◆分科会（第2分科会）

子どもの発達に関する課題◆

#### ○提言題1

キャリア教育における小・中連携の在り方と教頭の役割

発表者 秋田県大館北秋田教頭会

北秋田市立鷹巣小学校 出川 英章

#### ○グループ協議の柱

よりよい小中連携を目指した取り組みと教頭の果たす役割について

研究協議では、現在行われている小中連携の取組内容について情報交換が行われました。小学6年生の中学校体験入学、メディア・コントロールデーの設定、教員の交流（授業の乗り入れ、共同研究）等、様々な連携事業が行われていることがわかりました。また、課題として、小中の授業スタイルの違い、教員同士の温度差、連携のための業務量の増加等もあげられました。

指導・助言としては、小学校と中学校の文化の違いや温度差は確かにありますが、連携を進めるうえでお互いに役割分担をすることで責任感も生まれ、円滑に進めることができること、管理職が連携事業の意味づけをし、職員が熱くなるようにすることが大切であること等が話されました。

### ◆分科会（第2分科会）

#### ○提言題2

確かな学力と豊かな人間性・社会性を身につけた児童生徒の育成

～9年間の学びの適時性・系統性をふまえた小中一貫教育を通して～

発表者 福島県福島地区小学校教頭会

福島市立大久保小学校 管野 桃子

福島市立青木小学校 瀬川満美子

#### ○グループ協議の柱

小中一貫教育の取り組みとその推進における教頭の関わりについて

研究協議では、学力向上への取組内容について情報交換が行われました。授業技術の向上策として、人事評価制度に係る授業参観の実践、コアティーチャーの活用、県教委から示された授業スタンダードの実践、全国学テ結果のホームページへの掲載等があげられました。

指導・助言として、交流・連携を実践するうえ



で、連絡・調整役としての教頭の役割が大切であること、これからは小中だけではなく、保育所・幼稚園も含めた連携が重要になってくるだろうということが話されました。

### ◆終わりに◆

このたび参加させていただいた東北大会で、東北各地で行われている様々な取組を知ることができ大変勉強になりました。このような貴重な機会を与えてくださった教頭会事務局関係者各位、及び本校職員に深く感謝いたします。